



第10回「子どもと教育を考える」

発行 7860-0013 長崎市中央2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎高等専門学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料 一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス naga-kks@fsinet.or.jp

高等学校の「特別支援」教育の実態が浮き彫りになった

2月8日(日)、長崎県教育文化会館にて「第10回子どもと教育を考えるつどい」(以下「つどい」)を開催し、高教組を含む37人が参加しました。主催は新婦人、子どもの権利をまもる長崎の会、フリースペースふきのとう等の市民団体と高教組、長崎私教連、高退教、教職員会等学校関係団体で構成する実行委員会



「つどい」は、その趣旨を、長崎県の教育の実態を把握し、長崎県の抱える教育課題を明らかにし、教育運動につながることに、父母、高校生を含む市民の参加を保障する開かれた集会として開催されています。高教組はこの「つどい」を冬の教研とし、教研集会の一つと位置づけています。これまで、長崎県の教育の実態を明らかにするため、生徒への管理指導が強まったことについて生活指導や校則、生徒自治をテーマとした高校生と教職員・父母の討論集会、改善教育基本法とそれを受けて策定された長崎県教育振興基本計画について「愛国心」や「道徳教育」、侵略戦争を美化した「新しい歴史教科書」を考える等の学習会、また大規模普通高校の超勤過密労働や大学受験のための知識偏重の学力について、子どもの教育を受ける権利の観点から「わかる授業」一身上につけさせた「学力」等の講演・学習会をおこなってきました。今年度は、高校で急増している特別なニーズをもつ子どもへの学校生活



「つどい」当日は、全教組部長の土方功さんが「真のインクルーシブ教育」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

加えて、各学校の「特別支援教育」の現状を把握するため、民主教育推進委員長錦戸輝将さんが各校の特別支援コーディネーター・カウンセラー担当者へアンケート調査を実施し、40校から回収した率直な悩みや意見と資料として提示しました。

「つどい」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

「つどい」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

アンケートも踏まえての意見交換では、カウンセラー、コーディネーター等特定の職員の負担が大きいこと、学校全体としての理解や協力体制、支援体制がすすんでいないことなど、当面している課題が次々とあげられ、学校のとりくみの差が大きく、高校全体として支援体制の理解・整備がすすんでいないことが浮き彫りになりました。なかでもスクールソーシャルワーカーの増員と各校配置が急務であることに気づいて、すべての参加者の理解を得られたことは、今回の「つどい」のひとつの達成点であると思います。今後はこれを教育運動につなげることが課題です。

「つどい」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

「つどい」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

「つどい」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

お2人のお話で、漠然としていたことが整理でき納得できました。個々の生徒と話をする必要を強調されている時間が、そうするには日本の教員の現状を考えてしまいました。

参加者から多くの質疑、意見、感想をいただき、今回のテーマについての関心が高いことが改めてわかりました。今後は、「インクルーシブ教育」について父母、地域市民へ特別支援学校も含めて高教組で「起きていること」の実態の理解を深め、「学ぶ権利をもつ」困難を抱く子どもや父母、教職員にとって必要なスクールソーシャルワーカーの配置増員を教育運動につなげることや次年度教研でもこのテーマを継続してとりあげたいと思っております。

「つどい」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

「つどい」の意味や目的、全国高校の状況等を「高等専門学校における『特別支援』教育を考える」の演題で、また県と文科省の研究指定を受け、一人ひとりの具体的な支援のとりくみとして、佐世保中央高校定時制昼間分会の野田達也さんが「佐世保中央高等学校の特別支援教育」の演題で講演をおこないました。

対馬支部で新加入

、嬉しい届けが届きました。嬉しい仲間が増えました。は、組合員の生活と権利を守ることに全力を注ぎます。

総合共済5人加入 カステラを楽しむ

鳴滝高校昼間部で、女性の先生に総合共済5人の加入がありました。共済は、退職時に返ってきます。おめでとう。

全教第32回定期大会

教え子を再び戦場に送るな！ 憲法改悪を許さず、憲法を守り、いかそう！ 「3か年計画」にもとづく組織拡大運動の 飛躍を！



どが集まり、全教の定期大会が開かれました。長崎高教組から清峰分会の平湯さんと小田委員長の2人が参加しました。

来年度の運動方針の重要項目である「組織建設3か年計画」の推進及び職場活動の活性化、組織拡大・強化のとりくみと

15日の両日、千代田区永田町の星陵会館に52の各都道府県教組、150人を越える大会代議員、専門部の特別代議員など

「憲法改悪を許さず、憲法を守り、いかすたか」を大きな柱として、16本の議案が提案されました。それを受けて、2日間でおおよそ7時間、70本、71人の討論参加があり、各組織の先進的などりくみや創意工夫されたりくみや、意見が発表され、長崎高教組の小田委員長が4番目に演壇に立ち、「長崎高教組組織建設3か年計画」を早期に策定し、成功させる決意を力強く表明しました。

定期大会は、すべての議案と大会アピールが採択され、2日間の日程を終えました。

2月14日、15日の両日、千代田区永田町の星陵会館に52の各都道府県教組、150人を越える大会代議員、専門部の特別代議員など

「憲法改悪を許さず、憲法を守り、いかすたか」を大きな柱として、16本の議案が提案されました。それを受けて、2日間でおおよそ7時間、70本、71人の討論参加があり、各組織の先進的などりくみや、創意工夫されたりくみや、意見が発表され、長崎高教組の小田委員長が4番目に演壇に立ち、「長崎高教組組織建設3か年計画」を早期に策定し、成功させる決意を力強く表明しました。

採決前の谷全教書記長による執行部見解、長崎高教組の決意が2回も取り上げられ、もう後には戻れないと強く感じた次第です。また、大会前日の夜は中国四国九州ブロックによる懇親会、大会初日の夜は全体での懇親会に参加し、全国の仲間と交流し、元氣や知恵をもち、同時に、組織拡大・強化に全力を注ごうと決意しました。

「断られても意識ついてもうける」

拡大の声かけは、「愛の告白」と似た点があるという発言がありました。そのときは断られても、心の中で意識してもらえようというものでした。拡大の話をしていないと、組合について意識もされない。一度でマルではないので、日常の話ができる関係づくりから始めないといけないと実感しました。

また、「新聞や速報を印刷室に貼る」、「職員が少ないから忙しいのに、(特定の人が)仕事してないという話にすりかえられる」という発言が印象的でした。印刷室の壁などに新聞や速報などを貼っておくと、印刷機が動いている間はすることがないので、見る・読むだろう。机の上に配っても他の書類にまぎれたりするし、配布する手間も少なく、いい案だと思えました。それから、仕事の分担は、どうしても多い少ないがあるので、多い人の分を減らさず、少ない人数をふやすことが大切だと感じました。

都合で一日だけの参加でしたが、全教に集結する組織・組合員の力を感じた定期大会でした。

清峰分会 平湯 政敏

二二「靖国」と「侵略」を考える市民のつどい

2月11日、長崎県教育文化会館にて、「2・11「靖国」と「侵略」を考える市民のつどい」が開催され、長崎高教組から10名が参加しました。集まりは、鹿児島大学教授の木村明氏が「忍び寄るグローバル・ファシズムの影」戦争前夜の時代状況における日本の選択」と題して講演しました。

木村氏は講演の中で、ファシズムには石原、橋本のような下からのファシズムと権力中枢による上からのファシズムがあり、その典型が小沢事件

や警察・検察・裁判所を巻き込んだ数々のえん罪、そしてそのような背景で成立したのが秘密保護法と語りました。また、本来メディアは権力と対峙する関係にあるべきなのに、権力と一体化した情報操作が行われている。国民一人一人が、情報を主体的、批判的に判断できる能力をメディア・リテラシーを身につける大切さを強調しました。

来年度以降の給与制度の見直し等の現業賃金交渉

他職と同様の現給保障、退職金への影響の大幅減等 県教委の当初提案を大幅に押し戻し、妥結

現業職員の来年度以降の給与制度見直し問題について、県教委が1月13日に修正案を提案して以降、高教組は、各分会に大幅賃下げ提案の撤回を求める緊急団体署名をよびかけ、未組合員を含む現業職員からの意見表明文の集約にとりくみましました。その結果、59分会から団体署名が提出され、現業職員(在籍数36人)からのべ14通の意見表明が寄せられました。高教組は、県教委との交渉や折衝で、こうした現場教職員の声を示して、賃下げ提案の大幅修正を県教委に迫りました。その結果、2月13日の予備交渉、17日の第6回現業賃金交渉で、県教委から、非現業職員と同様の現給保障や退職金の

保障額の設定などをはじめとする回答(詳細は別掲)が示されました。回答の内容を見れば、現給保障の内容や退職手当への影響の圧縮など、非現業職員と同様になるように考慮していることが見て取れます。このことから、現業職員の意見表明文や分会からの団体署名の「ひとこと欄」に、他職と比べて格段に厳しい内容で大幅賃下げを提案したことに対して、「差別的だ」という怒りの声が多数寄せられていたことが配慮したものであることが伺えます。

高教組はこれらの回答について、これまでの交渉で高教組が要求した内容が反映したのも度として受け入れ、今年度の現業賃金交渉は妥結しました。

賃下げ幅を半分に圧縮

1月13日提案では平均10.4%の引き下げ、最高号給での引き下げ額4万200円だったものを、平均5.4%、2万100円の引き下げに圧縮。

非現業職員と同様の3年間の現給保障

非現業職員の「給与制度の総合的見直し」にともなう現給保障と同様に、2015年3月の号給より2号昇給した金額を2017年度末まで3年間保障する。

昇給停止は55歳からではなく57歳から

当初提案での55歳からの昇給停止を2歳遅らせて、57歳からとし、55・56歳の昇給は4号昇給とする。

退職手当の減額も他職並みに圧縮

2015年3月の給料月額97.5%の金額を退職時の給料月額とみなし、また、今年度末までの退職手当の調整額の130%を退職手当の調整額とみなして算定される退職手当の額を保障する。(この措置によって、前回までの回答では、約160万円の減額が想定されていた試算例では、10万円弱の減額に圧縮されることとなります)

期末勤勉手当(ボーナス)の10%加算の年齢条件を3歳前倒し

現行の「5級61号給以上又は57歳以上」を「5級61号以上又は54歳以上」とする。

「核兵器全面禁止のアピール署名」4周年の集い 長崎から核廃絶の願いを世界へ

2月15日、長崎市立図書館新興善メモリアルホールで、「核兵器全面禁止のアピール署名」4周年の集いが開催され、長崎高教組から7名が参加しました。

集会では、原水禁日本評議会常任理事の川田忠明さんが「戦後・被爆70年 核兵器全面禁止へ 被爆者と共に」と題して記念講演を行いました。現在世界の150ヶ国以上の国々は核軍縮の人的的影響に関する共同声明に賛同しているが、日本政府はアメリカの核の傘の下、長い間署名を拒んできた。しかし、被爆者運動や市民運動が政府を動かす署名にこぎつけることができ

た。私たちが地道な活動に自信を持ちました。うと呼びかけました。また、被爆者はこれまで、憲法

9条の下、報復ではなく「人間をかえせ」というスタンスで70年間活動してきた。被爆者運動と憲法9条を生かして守る運動こそが、「イスラム国」のような過激テロ事件を起こさせない、さらに核兵器根絶につながる」と強調しました。

会の終わりに4月にニューヨークで行われるNPT再検討会議に参加する代表団の決意表明が行われました。

高教組からは、島原支部、大村支部から参加希望者が名乗りを挙げており、被爆県長崎の教職員組合として、一人でも多くの参加が実現することを願っています。各職場でカンパをお願いします。ご協力をお願いします。

